



一中だより

令和6年度 第14号 令和6年11月22日(金)

PTA資源回収・リユース販売会 お世話になりました 『一中版 SDG'S』を目指した取組と思っています



11月17日(日)に PTA 活動の一環として、資源回収並びに制服・体育着・柔道着リユース販売会を実施しました。資源回収については、昨年度同様に事前の回収を控えつつ紙類・金属類を回収する対象として行いました。リユース販売会では、従前から取り扱っていた制服・柔道着の他に体育着の販売を新たに加えました。

実施にあたっては、紙類や缶類・鍋・釜・コード等の資源の供出、販売用の制服・体育着・柔道着の寄付、実施に向けた広報活動等々について、多くの保護者や地域の皆様など関係各位に様々な面でご協力いただきました。また、PTA・部活動後援会本部役員の皆様には、提供された体育着に縫い付けられていた名前の刺繍を丁寧にほぐして削除する作業や販売する衣類の程度に応じた値付け作業など事前準備にご尽力いただきました。

当日は、小雨が心配された天気予報でしたがよい意味で外れて晴天で暑いくらいの陽気となり、



たくさんの皆様に資源の搬入でご来校いただき、多くの資源を業者へ引き渡すことができました。昨今、紙類の価格が下落している一方で金属類の価格が高騰しており、事業の効率性等の面から多くの金属類を回収できましたことに、感謝申し上げます。また、リユース販売会では、開始時間には入場待ちの列ができるほどの盛況でした。天気がよかったことに加え、今年度が実施3年目となり徐々に周知されてきた成果とも思います。来年度本校に入学予定のお子さんとそのご家族の方々のみならず在校生とそのご家族も来られ、格安でリユースの制服・体育着・柔道着を購入できたとの声を聞くことができ、好評でした。



PTA・部活後援会本部役員の皆様の尽力や各部の代表生徒の協力を得て資源回収とリユース販売会を並行して実施でき、昨年度同様に効率よく活動を展開し、(持続可能な社会化といった SDG'S への寄与も併せ)成功させることができましたと思います。大変お世話になりました。



今回得られた資金は、PTA 教育振興基金へ繰り入れさせていただき、様々な教育活動の原資として生徒へ還元していきたいと思っています。なお、成果等の詳細につきましては、別途、書面にて報告いたしますので、そちらをご覧ください。

これから寒くなる季節

防寒と安全の両面から気をつけてもらいたいことがあります

今年の2学期は夏の猛暑を引きずるような陽気でしたが、11月も半ばを過ぎ、朝夕は特に寒さを感じる日が多くなりました。防寒のために上着やウインドブレーカーを着込む生徒を目にするようになりました。寒くなるなかで、登校する生徒を校門で出迎えたり、廊下等で生徒とすれ違ったりするなかで、心配になることがあります。



それは、上着やズボン等のポケットに手を入れたまま歩く生徒や自転車走行中にウインドブレーカーの袖の中に手を入れたままハンドルを握っている生徒が時としていることです。(校内においても窓を開放して換気を徹底しているので冷え冷えしていると感じることもあり、ポケットに手を入れたまま廊下等を歩いている生徒をこのところ見かけるようになりました。)ポケット



に手を入れたまま歩いたり袖の中に手を入れたままハンドルを握って自転車を運転したりしていると、転倒した際、とっさに手で身体を守ることができず大怪我につながる可能性が大きくなります。また、姿勢も背中が丸まりやすく、これから成長期にかかる中学生として健康面での心配もあります。指先が冷えるようでしたら、手袋の着用や持参をお願いします。

いずれも、人数にしてごく僅かな生徒ですし、注意するとすぐに直してくれます。つつい癖で…、無意識のうちに…、のことはと思いますが、ご家庭でも気が付かれましたら、安全面や健康面から注意喚起の声かけをお願いします。

自分の言葉で話せることが大切です

12月3日～5日に予定されているチャレンジウィーク(職場体験学習)に向けて、11月の上旬に2年生が各事業所へ事前訪問するためのアポイント電話を行いました。本校ではチャレンジウィークを実りある活動にできるよう、実施前に各事業所へ伺い、依頼のあいさつを行うとともに活動上の留意点などを教えていただくために事前訪問を行っています。

生徒が各事業所へアポイント電話を行っている場に何回か居合わせたところ、上手に応答できている生徒がいる一方で、時に電話口で黙り込んだり言葉に詰まったりする生徒も見かけました。電話する前には、各班でフォーマットに従って話す内容を原稿化していますが、実際には原稿のとおりにはやり取りが進むとは限りません。想定外の問いかけや指示を受けることもあります。その際には、相手の話の主旨をしっかりと理解したうえで応答しなければなりません。事前には準備していない応答ですので、如何に「自分の言葉」で話せるかが問われます。人は言語で思考しますので、自分の思いや願いなどを即応的に伝えられる「自分の言葉」を身に付ける必要があると思います。日常の言語活動を大切に、会話において相手の論旨を的確に把握し相手へ自分の伝えたいことを的確に伝えられる「自分の言葉」を中学生の時期に身に付けたいものですね。翻って、私も生徒にとっての日常的な言語環境の一端であることを自覚し、「自分の言葉」で会話できるようにしたいと思います。

